

# (特集) 大洲の鉄道物語 ～愛媛鉄道開通100周年記念事業～

現在、日本国内では、新幹線をはじめ、多くの鉄道が日本中を巡り、人や物資を輸送しています。日本で最初の鉄道は、明治5年(1872)に開通した新橋―横浜間(約29キロメートル)です。開通した10月14日は、鉄道の日とされています。

一方、大洲地方では、肱川を利用した河川交通を中心に栄えてきました。そこに、西豫電気軌道(後の愛媛鉄道)による伊予郡郡中(現在の伊予市)から中山、内子を經由して大洲、八幡浜に至る鉄道の敷設が計画されます。しかし、資金不足などの問題があり、山越えを避け、海岸沿いである長浜経由として路線を建設することになります。そして、大正7年(1918)に長浜から大洲を結ぶ路線が開通しました。

開通から100年を迎え、その記念事業として、大洲市立肱川風の博物館・歌麿館で「大洲の鉄道物語展」が開催されています。

愛媛鉄道の誕生から、開通100年を迎えるまで、大洲の鉄道がたどってきた道を振り返ってみましょう。

## 3. 国鉄の延伸

昭和10年(1935)6月、伊予上灘駅―下灘駅間が開通、同年10月には、新築移転した伊予大洲駅まで国鉄が開通しました。これにより、高松から大洲まで1本の線路でつながったことになりました。

昭和11年(1936)には伊予平野駅まで、昭和14年(1939)には八幡浜駅まで延伸開通しました。

昭和16年(1941)には、宇和島駅―卯之町駅間が開通、昭和20年(1945)には、最後に残されていた八幡浜―卯之町間が開通することで、国鉄予讃本線高松―宇和島間がついに全通することとなりました。

昭和10年～昭和20年

昭和8年

## 2. 国鉄による買収

高松駅から松山駅まで開通した日本国有鉄道(国鉄)は、さらに松山以西の延伸計画を進めます。そして、国鉄は、当時経営が厳しい状況にあった愛媛鉄道を昭和8年(1933)に約120万円(現在の貨幣価値にして約23億円)で買収しました。

国鉄に買収、移管された路線は、国鉄愛媛線と呼ばれますが、買収後すぐにレール幅を変更する工事が行われました。



愛媛鉄道 長浜駅(大正時代)

## 1. 愛媛鉄道の誕生

明治43年(1910)、「西豫電気軌道」が伊予―大洲間の鉄道を計画します。(明治44年(1911)5月に「西予軽便鉄道」、9月に「愛媛鉄道」へと社名変更)しかし、資金の調達不足から、計画を大幅に縮小し、中山、内子の山越えを避けて、海岸沿いである長浜経由とし、レール幅も小規模化しました。建設は、容易と考えられた大洲―長浜間および大洲―内子間が優先的に行われることとなります。

そして、相次ぐ変更のなか、大正7年(1918)、長浜―大洲間15.8kmが開通し、2年後に、大洲―内子間が開通しました。

明治43年～大正7年

平成2年～

## 6. そして現在へ

平成2年（1990）には、2000系が導入され、昭和41年（1966）から走っていた急行「うわじま」は、新たに登場した特急「宇和海」にその任務を譲ります。これにより、愛媛県内を走る優等列車はすべて特急となり、完全な特急時代へと移行しました。

平成26年には、四国初の本格観光列車「伊予灘ものがたり」が運行されています。

## 5. 特急時代の到来

昭和47年（1972）、四国で初めての特急が登場しました。高松—松山—宇和島間に「しおかぜ」、高松—高知間に「南風」の愛称が付けられました。高松—宇和島間は、急行に比べて停車駅も少なく、所要時間も約4時間35分となり、大幅に短縮されました。

昭和62年（1987）、日本国鉄の分割民営化により、四国旅客鉄道株式会社（JR四国）が発足しました。現在は、9路線、総営業キロ855.2kmの鉄道路線を営業しています。

昭和63年（1988）の瀬戸大橋開通後、「しおかぜ」が岡山発着とされると、高松—松山・宇和島を結ぶ特急として「いしづち」が誕生しました。

昭和47年～昭和63年

昭和25年～昭和33年

## 4. 準急時代から急行時代へ

昭和25年（1950）、高松—松山間にはじめて愛称付準急「せと」が誕生しました。その翌年には、宇和島まで運転が延長され、南予路も準急時代へと突入します。当時の運行は、高松—宇和島間1本のみで、所要時間は約7時間かかりました。

昭和33年（1958）から昭和36年（1961）にかけて、準急「やしま」や愛媛初の急行である「四国」が登場し、車両も蒸気機関車けん引による客車から、当時新鋭の気動車（エンジンを搭載した列車）へと変更され始めました。この車両の近代化により、高松—宇和島間の所要時間も最速で約5時間30分に短縮されました。

### 五郎駅付近の軌道改変工事

国鉄による愛媛鉄道買収後に行われた軌道改変工事の様子が撮影されています。



内子駅に停車する急行うわじま（昭和時代）



2000系特急気動車（平成20年ごろ）

スピードアップを図るためカーブでも速度を落とすことなく走行できる制御付振り子車を搭載しています。



# 模型でよみがえる歴代の列車

## 愛媛鉄道誕生〜国鉄時代

（模型個人所有  
スケール80分の1）



**キハ52気動車**

無煙化達成による輸送力増強のため、昭和30年代より導入されました。



**DE10ディーゼル機関車**

蒸気機関車に代わる機関車として、昭和41年に配備されました。



**C12蒸気機関車**

C12形は、内子線・宇和島線など南予地域において活躍しました。



**50系客車**

昭和53年、ほとんどの車両が気動車化される中で、唯一残されていた旧客車列車の据え置きとして導入された車両です。

**キハ58系気動車  
（急行うわじま）**

昭和41年、準急から急行への格上げによって登場した急行列車です。



**キハ181系気動車（特急しおかぜ）**

昭和47年、高松—宇和島間の特急に使用された車両です。JR四国になると、コーポレートカラーであるブルーに塗装されますが、平成5年に引退しました。



## 四国初の特急列車

（模型個人所有  
スケール80分の1）



**キハ47系気動車**

昭和52年ごろからキハ66系をベースに製造された車両です。片側運転台が特徴です。現在は、南予路での運用はなくなりました。

**2000系気動車  
（特急しおかぜ）**

平成2年より特急しおかぜとして使用された振り子式特急気動車です。現在は、特急宇和海として使用されています。



## まだまだ現役車両

（模型個人所有  
スケール150分の1）



**キハ54系気動車（昭和61年）**

低コスト・高性能の気動車として製造・導入されました。現在は、主に松山—宇和島間で運用されています。



**キハ32系気動車（昭和62年）**



# 当時の貴重な資料



改正鉄道地図(大正14年 個人蔵)

全国の鉄道路線を記した地図で、愛媛鉄道路線も記されています。



西豫軽便鉄道株式申込證  
(明治44年 個人蔵)

愛媛鉄道の前進である西豫軽便鉄道株式会社は、明治44年、郡中(現伊予市)から八幡浜喜須来村(現八幡浜市)まで鉄道路線を計画しました。この文書は、西豫軽便鉄道が株式を募った株式申込證で、本店の所在地が郡中となっていて、大洲地方から沸き起こった鉄道路線ではなかったことが分かります。

国鉄車掌制服(右)  
(昭和時代 個人蔵)

国鉄時代の車掌の制服で、夏に着用していた制服です。この白色は、主に車掌や駅長のみが着用していました。



機関士制服(左)  
(昭和30年頃 個人蔵)

蒸気機関車を運転する機関士が着用していた制服です。通称ナツパ服とも呼ばれていました。



特急「しおかぜ」  
登場記念切符  
(昭和47年 個人蔵)

特急「しおかぜ」開設10周年記念切符  
(昭和57年 個人蔵)



「大洲の鉄道物語展」ポスター



吊サボ  
(昭和時代 個人蔵)

旧客車時代に列車の側面に取り付けられた行先表示板です。現在では、こうした行先表示板はほとんど使用されなくなりました。

## 大洲の歴史と共に

今回は、愛媛鉄道が開通してから100年間分の歴史を紹介しました。懐かしいと思う人もいれば、もう一度乗ってみたいと思う人もいたかもしれません。

大洲の発展を支えてきた鉄道は、時代とともにさまざまな形に変遷しました。鉄道の歴史は、当時の文化や技術が色濃く反映されています。鉄道に限らず、他の交通手段の歴史も調べてみてはいかがでしょうか。

6〜9ページに掲載した内容は、大洲市立肱川風の博物館・歌麿館で開催されている「大洲の鉄道物語展」(入場無料)を参考に作成しています。

## 災害から復活 あまいイチゴを今年もどうぞ

観光いちご園の開園に先立ち、地元保育所児童によるイチゴ狩りが、12月12日(水)に徳田いちご園で、27日(木)に川本いちご園で行われました。

川本いちご園に招待された菅田保育所児童24人は、大きなイチゴを手に持ち「甘くておいしい」と笑顔で食べていました。川本いちご園では、「紅ほっぺ」や「あまおとめ」、「紅い掬<sup>あか しづく</sup>」など5品種を栽培しています。



川本 英男<sup>ひでお</sup>さん  
由紀美<sup>ゆきみ</sup>さん  
(川本いちご園)

「災害により多くの苦労がありました。今シーズンも開園することができました。栽培面積は4割程度減りましたが、イチゴは例年以上に育っています。完熟したイチゴをぜひお楽しみください」

### イチゴ園の情報について

【開園期間】 5月下旬まで 【開園時間】 午前10時～午後5時

【休園日】 木曜日(徳田いちご園)、月曜日(川本いちご園)

【入園料】

▽1～3月 中学生以上：1,200円 小学生以上：1,000円 2歳以上：700円

▽4月以降 小学生以上：一律1,000円 2歳以上：700円

※団体割引：15人以上で1人200円割引

【時間制限】 土日・祝日：入園から1時間 平日：時間制限なし

【場所】

#### 徳田いちご園



〒795-0065 大洲市東若宮8-8

#### 川本いちご園



〒795-0084 大洲市菅田町宇津(成見)

【問い合わせ先】

▽徳田いちご園 ☎090 (4335) 2925

▽川本いちご園 ☎090 (3784) 0150



## 多くの災害支援をいただきました

滋賀県高島市は、中江藤樹とうじゅの生まれ故郷であり、長年に渡って大洲市と友好交流を行っています。

その高島市は、平成30年7月豪雨の際に、大洲市に代わって寄付金などを受け付け、受領書発行事務などを代理で行いました。その寄付金を届けるために、11月27日(火)、高島市の平井秀明ひらいひであき政策部次長ら3人が大洲市役所を訪れました。寄付金を受け取った二宮市長は、「高島市には、災害当初から給水支援や多くの物資をいただいた。本当に感謝している」とお礼の言葉を述べました。



## しめ縄に無病息災の願いを込めて

正月を気持ちよく迎えてもらうと、柴地区の老人クラブ千歳会が、12月26日(水)、手作りのしめ縄を特別養護老人ホームひまわりに届けました。千歳会の代表である上満武かみみつたけさんは、「新年は災害のない年になるように、そして実りのある年になるように願ってしめ縄を作った」とあいさつしました。

入所者たちは、「かわいいね」「これは立派だね」と言いながらしめ縄を手にして笑顔を見せていました。



## 豪雨災害にも負けず

11月下旬に岐阜県高山市で「第20回記念大会 米・食味分析鑑定コンクール：国際大会」が開催され、都道府県代表お米選手権で、JA愛媛たいきの米麦生産出荷協議会が特別優秀賞を受賞しました。

JA愛媛たいきの関係者らが1月8日(火)市役所を訪れ、受賞の報告を行いました。米麦生産出荷協議会長の河野孝寿たかとしさんは、「7月の豪雨災害にも負けずに育ってくれた。この受賞を機に、多くの人に知っていただき、食べてほしい」と受賞の喜びを語っていました。



## 大洲の復興を目指して

八多喜復興祭が1月6日(日)、JR八多喜駅前通りを中心に開催されました。

広場に設置された特設ステージでは、愛媛県住みます芸人の「ひめころん」による司会進行のもと、地元の子どもたちやクラブによる演奏や踊りが披露されました。また、八多喜町出身のお笑いタレント石本大輔だいすけさんがコンビを組む「バンビーノ」による凱旋ライブも行われました。

各種バザーや展示会なども行われていて、会場は多くの家族連れでにぎわいました。



## 絵本を通じてきずなを深める

一般社団法人生命保険協会愛媛県協会による絵本の贈呈式が、12月14日(金)、喜多地域子育て支援センターで行われました。この取り組みは、生命保険協会の「読み聞かせによる『家族のきずな』推進活動」の一環であり、市内4カ所の子育て支援センターなどに絵本計84冊が寄贈されました。

贈呈式では、愛媛県協会の片岡佳彦(よしひこ)会長が「絵本の読み聞かせを通じて、家族のきずな、親子のきずなをより深めてほしい」とあいさつしました。



## 地域の障がい者福祉の向上に貢献

12月23日の天皇誕生日に際し、社会福祉事業奨励のため、事業運営が優良な民間社会福祉事業施設・団体に対し、天皇陛下より金員が御下賜(ごかし)されます。愛媛県からは、社会福祉法人三善会「大洲ホーム」が選ばれました。

御下賜金伝達式が、12月18日(火)、大洲ホームで行われました。施設長の渦尻敬治郎(うずしりけいじろう)さんは、「これからも質の高いサービスが提供できるように、職員一丸となって努めていきたい」とお礼を述べました。



## 新年の思いを筆に込めて

第51回大洲市小中学生新春書き初め会が、1月7日(月)、喜多小学校で行われました。この書き初め会は、書写能力の向上を図り、文字の形を整えて丁寧に書く態度を育てることを目的に毎年実施されています。

市内の小学3年生から中学3年生までの児童生徒約200人が参加し、「正月」・「決意」・「探究」などの課題文字に挑みました。子どもたちは、真剣な眼差しで筆を運び、より完成度の高い作品を目指していました。



## 平成30年度社会教育功労者表彰

国立大洲青少年交流の家外部指導員(しんやまひろし)の新山博司(ひろし)さん(玄宗)さんが、社会教育功労者表彰を受賞されました。新山さんは、特色ある活動プログラムの「坐禅・講話」の研修指導員として活躍されていて、その献身的な指導は、青少年の健全育成に多大な教育効果をあげています。

青少年交流の家で表彰を受けた新山さんは、「名誉ある賞をいただき、大変光栄に思う。これを励みに、青少年教育に一層尽力したい」と今後の抱負を述べました。





# 大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

大洲市肱南地区にあるポコペン横丁。昭和30年代の風景を再現し、懐かしい遊びが体験できる場所です。日曜日に開催され、小さい子には新しく、お父さんには懐かしいと、観光客や近隣住民から親しまれています。定期的にライブイベントや、夏祭り、昔遊選手権が行われています。ぜひ、遊びに行きましょう。

## 【今月のクイズ】

昔遊び 選手権は、何の遊びで競われるでしょうか。

- ① メンコとベーゴマ
- ② ベーゴマとゴム銃
- ③ ゴム銃とメンコ



【1月号のクイズ解答・解説編】  
大自然現象 肱川あらしと、同じ現象が発生する国内の場所とは、どこでしょうか。

- ① 北海道
- ② 鹿児島県
- ③ 茨城県

正解：②

解説：鹿児島県薩摩川内市にある川内川あらし。肱川あらしと同じ自然現象が発生するそうです。この川内川は、肱川と似た特徴がとでも多く、大きな川で、大きくうねる形状をしています。



※今月号のクイズの答えは、広報おおず3月号に掲載します。

## 野鳥

ウソ (鶯)  
スズメ目 アトリ科  
全長 16cm



「フィー、フィー」という鳴き声の特徴の小鳥です。口笛のことを「嘯吹き」と言っていたことから、似た鳴き声なので「ウソ」と名前が付いたようです。大陸系のお腹の赤い「アカウソ」、北日本で繁殖している「ウソ」と区別しています。

公園によく現われ、桜の脹らんだつぼみを好んで食べるので、桜の名所では厄介者とされています。しかし、桜も二番、三番手のつぼみを用意していて、自然界は人間の器ほど小さくはないようです。

誤った解釈で生き物を極端に嫌って悪者扱いにすることがよくありますが、その生き物の特性や意味を理解すれば、地球にとって誰が一番に無理無駄をするお荷物であるかは、考えればすぐに答えは出ると思います。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト

## 文化財

長浜古図  
大洲市指定有形文化財  
(絵画)  
住吉神社所有



長浜市街地の東側にある御建山に鎮座する住吉神社は、江戸時代、参勤交代の際に藩主自ら参詣するなど、歴代藩主の信仰を受けた神社でした。

神社にあるこの絵馬は、長浜の町を北西方面から遠望した鳥瞰図で、縦147cm、横265cmにもなる大絵馬です。天明6年(1786)、大洲藩の大船頭を勤めた高橋源右衛門が、63歳の時に奉納しました。

町家や大洲藩の屋敷などが詳細に描かれています。右下部分の肱川河口には、参勤交代に使用する御座船が並べられた姿が描かれていることから、参勤交代で長浜を出帆する姿を描いたものと推定されます。

町家を鳥瞰的に描いた絵馬は市内でも数少なく、中でも最も古いこの絵馬は、当時の長浜の姿を知る上で貴重な資料といえます。

(平成16年9月9日指定)